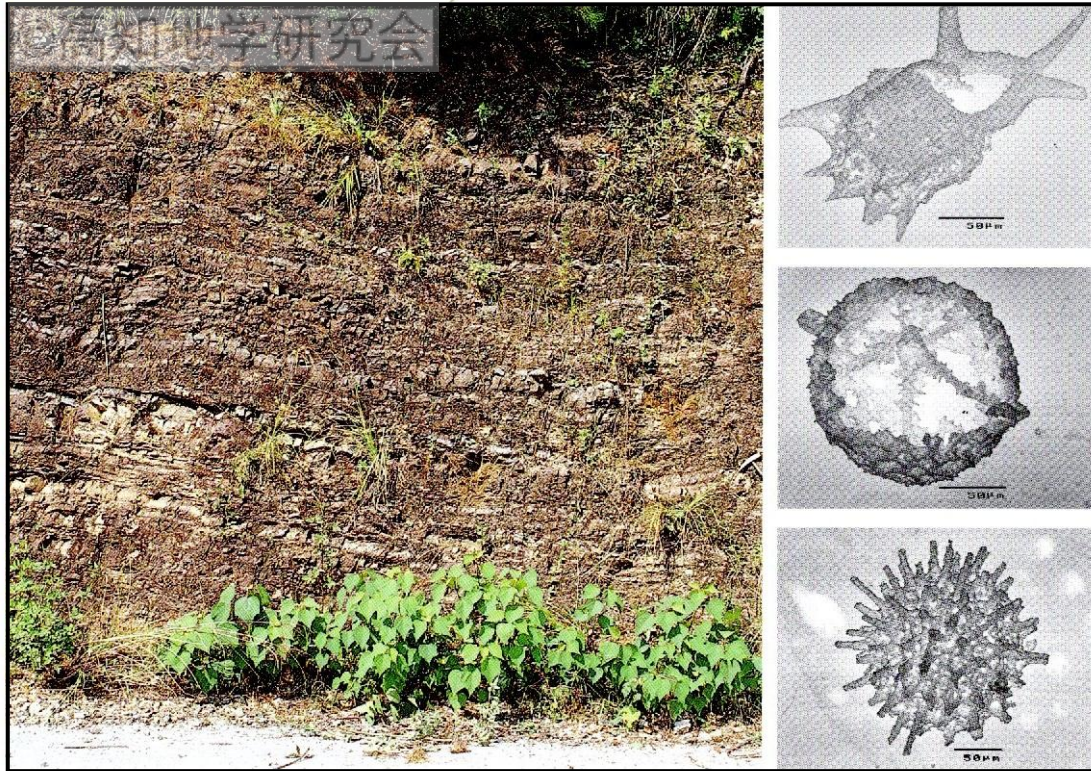




③ 酸性凝灰岩と放散虫化石 [高知市鴻ノ森] (シルル紀)

Acidic tuff and radiolarians (Silurian)

鴻ノ森は高知市の中心部から北西約 4km の所にある標高約 300m の小山で、黒瀬川構造帯のシルル紀酸性凝灰岩と花崗岩で構成されている。

酸性凝灰岩は淡緑色～褐色の細粒緻密な岩石で一見チャートに似るが、顕微鏡で観察すると、凝灰岩に特有な火山ガラスや軽石が含まれる。

この凝灰岩からは保存良好な放散虫化石が得られ、シルル紀の放散虫化石の研究にとって世界的にも大変重要な場所の一つである。

最近、凝灰岩に含まれるジルコンのウラン-鉛年代が測定され、約 4 億 900 万年前に噴出したものであることが判明した。

(放散虫化石の走査電子顕微鏡写真提供:大阪市立大学理学部地球学教室梅田真樹氏)